

平成 19 年度宮前区区民会議・企画部会（第 2 回）摘録

日 時 平成 19 年 8 月 8 日（水）19 時 00 分～21 時 00 分

場 所 宮前区役所 4 階第 1 会議室

出席者 小林委員長、永野副委員長、川西副委員長、浅野委員、川西委員、渡辺委員、目代委員

事務局 田邊企画調整担当主幹、中山同主査、成沢職員

橋本地域振興課長

1．開会・事務連絡（事務局）

事務局から事務連絡

- ・ 会議公開についての説明。
- ・ 欠席委員：宇賀神委員 遅刻委員：目代委員
- ・ 議事の(1)「平成 18 年度宮前区協働推進事業評価について」の説明、及び質疑のため、協働推進事業各所管の職員もしくは代理職員が参加。

委員長挨拶

小林委員長 よろしくお願ひいたします。本日は明後日、8 月 10 日に予定されております第 2 回区民会議の下準備が中心になります。検討事項がたくさんあるようですので、早速議事に入らせていただきます。

2．議事

(1) 平成 18 年度宮前区協働推進事業の評価について（資料 1・2）

事務局田邊企画調整担当主幹より資料 1 に沿った説明があった。

- ・ 事前に資料を各委員に送付させていただいた。本日は主だった所を説明させていただく。
- ・ 平成 18 年度も 5500 万円の予算の中で、6 つのテーマに基づいて事業展開をしてきた。資料には各事業の経過、次年度の事業計画、優先度、評価などが記入されている。
- ・ 不要額の欄は事業の効率化や契約差額によって生まれた予算額との差額である。
- ・ 「6 その他」は年度当初の予定には無かった、緊急的に実施した事業である。

小林委員長 ありがとうございます。協働推進事業もこうした報告が定着し、きめ細かい状況になってきたと思います。

事務局（田邊） 各担当も来ておりますので、質問やご意見等ありましたら、お答えいたします。

川西委員 “区民との協働”という視点から、5500 万円がどういう形で使われるのがいいのか、見えにくい。“協働”と言いつつ、元々行政が当然やるべき事業で大部分が作られている気がします。事業の発案もほとんど行政ではないでしょうか。どのくらい“協働”のために使われているか。どの程度区民が企画段階から参加しているのか、表の中でそのあたりの区分けをしていただけるとよいと思います。

事務局（田邊） 今後の事業の整理の仕方として、区民の関わり具合をどういった形で表記するかというご指摘ととらえ、工夫をしていきたい。

確かに名称からすると“協働”という部分が強調されていますが、全て協働で行っている事業というわけではなく、誤解を受けやすい部分もあります。場合によっては目的、内容に協働となる部分を加えていくなどの工夫は必要だと考えています。そのあたりも整理していきたいと思います。

川西委員 誰が発案したかなど、プロセスに市民がどのように関わったか、わかるようになっていると、良いと思います。各事業について、まとめて質問を申し上げます。

「1 - 7 シニアパワー活用支援事業」…具体的な内容はどのようなものでしょうか？

「3 - 8 宮前区ダンス・バンドイベント」…中止の本当の理由は何でしょうか？なぜ企画運営の中心に考えていたグループの参加が難しくなったのか？こういうところをおろそかにすると協働の進行に不都合がでてきかねないと思います。

「5 - 1 宮前区役所 BGM 配信事業」…昨年も話題になったが、誰が何を持って評価しているのか？

「6 - 4 宮前区子ども安全の日の制定」…どのような啓発、成果や運動につながったのか？

「6 - 7 宮前区 HP のリニューアル」…団体情報の更新などはどのように機能しているのか？

事務局（東） シニアパワー活用支援事業は、団塊世代の方々の退職を契機にシニアを支援していこうということで、追加予算も計上して実施しました。まず呼びかけチラシを作成し、団塊世代の区民 9500 人の内 8000 前後の世帯にダイレクトメールで郵送しました。またその後、シニアに向けての講演会も開催しました。チラシ作成費、講演会の講師の方への謝礼などの経費が計上されました。

川西委員 講演会には当日どのくらいの方が参加されたのでしょうか？

事務局（東） 130 人くらいの方が当日いらっしゃいました。

小林委員長 確か当日会場でアンケートも実施していましたよね？

事務局（東） 事前アンケートや後日の FAX 等での回収も含め、200 に少し足りない数の回答を得ましたが、集計結果をまとめるところまでは、まだ至っておりません。

小林委員長 せっかくですから、どんな意見があったかまとめて、今後の参考としていただきたいと思います。

事務局（橋本） 宮前区ダンス・バンドイベントですが、自主企画の中心と想定していたグループのリーダーが留学してしまい、連絡がうまく取れなくなってしまいました。また、その団体が他区のイベントにも関わっていたこともわかり、今回は事業の実施を見送らせていただきました。

小林委員長 イベントの会場はどこを想定していたのでしょうか？

事務局（橋本） 区役所と市民館の間の市民広場です。もともとそこで練習しているストリートダンスのグループなどに声をかけていました。

事務局（？） 宮前区役所 BGM 配信事業ですが、昨年度のご指摘を受け、今年度は総合案内のところに曲目やアレンジ、効果等の紹介をさせていただきました。感想等について庁内でのアンケートも行いましたが、昨年同様それほど回答数が得られていません。今後については、トイレの改修事業に合わせて、トイレ内でも BGM が聞こえるようにする案も出ています。

事務局（？） 宮前区子ども安全の日の制定事業の主な目的は二つあります。宮前区では、区の安全・安心まちづくりの元に各小学校区（17 地区）で「子ども安全・安心協議会」を立ち上げました。一つ目の目的は、区全体の中でこういった活動をどう応援していくかという視点からの設定です。神奈川県警の提唱で麻生区では先行して制定されており、川崎市では二区目になります。現在市としても、制定を検討がされています。全体として、子ども安全・安心に関心をもっていくんだという意思表示でもあります。もう一つの目的は地域の中で、まだまだ子ども安全・安心協議会が浸透していないという意識があり、学校、区役所、地域が一体となって推進していくんだということを、できるだけ目に見える形で示すということです。懸垂幕、チラシ、ポスター、回覧板などを使って、学校と地域の両方から雰囲気盛り上げています。チラシは 2 万 6 千部を作成、配布しました。今

後も定期的に、全体の応援を進めていきたいと考えています。

小林委員長 こども安全・安心協議会はどのくらいできているのでしょうか？

事務局（？） 全小学校で立ち上がっています。腕章やIDカードなどを作成し、パトロールを実施している地域もあり、老人クラブ、ワンワンクラブなどが関わっている地域もあります。目に見える形が徐々に出来上がっている地域、協議会は立ち上がったが活動内容はまだ検討中の地域などがあります。時間をかけて、できるところから地域全体で盛り上げ、こども安全・安心の意識付けを進めていきたいと思います。

川西委員 チラシ2万6千部はどのように配ったのでしょうか？

事務局（？） 小学校は全児童に配布しました。あとは中学校の一部や町会の回覧などです。

小林委員長 優先度がなぜBなのでしょうか？

事務局（？） 事業としては、18年度で終了。今後はもう同じことを一度やるということではなく、今回つくりあげたベースの上に新たな形で展開していくということでBです。

事務局（成沢） 団体情報の更新に関わるのは宮前区のポータルサイトの事業であり、協働推進事業とは予算枠が異なります。ここでいうホームページは宮前区区役所のホームページです。改修には、プログラム等に時間がかかるということで2ヵ年にわけて実施しています。今月中を目途にリニューアルされる予定です。見た目や操作性が改善されます。ポータルサイトは総務局の予算でやっている別事業です。

永野委員 協働推進事業は地方分権の中で、市から区への分権の意味もある事業であり、宮前区独自の活動ができる予算であると考えています。また、これと別に市の中での区要望の事業がありますが、両者の位置づけをはっきりさせて分権を進めていく必要があると思います。

協働事業というからには、事業発案の部分から、区民と一緒にできると一番良いのではないかと。発案のしくみが検討されると良いと思います。事業評価だけではしょうがないと思います。

内容を見ると、前々から区民の協働で動かし、続いてきている事業も多く入っています。今後区民会議の討議日程を予算請求の時期と合わせていくという話がありましたが、区民会議が発案を担っていくということでしょうか？もっと広く区民の意見を取り入れるしくみも必要ではないかと思えます。

行政として、今後5500万を増やしたいのか、このままで良いのか、どうお考えなのでしょうか？

渡辺委員 企画部会の立場も計画段階から絡んでいるわけではなく、微妙に感じます。事業計画が固まる前にお知らせいただけるようなしくみがあると良いと思います。

浅野委員 その他、緊急対策事業の中に平成17年度から始まった事業（みやまえ区民フォーラム）があるが、緊急なのに17年度からというのはどういうことか？

事務局（橋本） みやまえ区民フォーラムは17年度に初めて突発的に実施されました。また、その時点で既に平成18年度の予算も固まっていたので、18年度も緊急対策事業の中で計上しました。19年度以降につきましては、追加事業ではない形でやっていきます。

鈴木委員 やはり協働事業ということであれば、誰と協働しているのかももう少し見えるように示していただきたかったなと思います。

川西委員 予算が立てられる前の段階、第1案の段階で協議ができれば、区民会議としてもいろいろな発言や意見が言えると思います。

小林委員長 予算組の段階から関わるのは難しいといわれた記憶がありますが、こういう事業をやりたいのだが、という相談がある程度あってよいのではないかと思います。

事務局（田邊） 区民会議で協働推進事業を承認してもらおうという考え方ではなく、こういう事業をやるということに対して意見をいただき、それを反映させていくという考え方です。事業計画の段階や、事業に実際に着手する段階でご意見をいただければ、それを反映していくことができます。

川西委員 昨年も同じような話だったと思いますが、示し方が変わっていないように思います。

事務局（田邊） 情報提供等のやり方を変えていく必要は感じています。例えば今 20 年度の事業について、現在アイデアを出し合っている時期ですので、ある程度固まった時点で区民会議に示して、意見をいただくような形を取りたいと考えています。

浅野委員 後の議題で話が出てくるのかも知れませんが、区民会議で報告書を出し、課題解決の提案をした事項に対して、区の中でどの事業費をつかって、どのような動きがあるのか見えると良いと思います。

事務局（田邊） 昨年度いただいた 17 提案から事業に結びついたものについては、区民会議の関わりがかなり高いと考えています。20 年度の事業に組み込まれる場合は早い段階からご意見をいただくような形が必要だと思っています。

小林委員 誰が提案し、どの程度関わっているのか、区民会議との関係がどこにあるのか、というところを示していただければと思います。

事務局（中山） 区民会議からの提案をいただいた時には平成 19 年度の予算はもう決まっていたので、区民会議の提案が実際に事業として具体化されていくのは、平成 20 年度からになります。この平成 20 年度の予算ですが、まだ固まっていない段階です。協働推進事業の額についても、おそらくこれまでと同様の 5500 万円の枠だろうという話ですが、まだ確定していません。全市としてもそのあり方や額などを検討している段階です。

また、区要望については、現在その制度はありません。これは以前例えば「保育園をつくって下さい」などといった、施設整備等の要望を市にあげる仕組みで、やるかやらないかは市の判断でした。現在では区の課題解決予算という言い方がされており、先ほどのポータルサイト事業や、トンネルの事件を受けて現在トンネル内に壁画を描いている事業などがこれにあたります。

川西委員 健康福祉局の事業など、この 5500 万でやるべきなのかどうかと思う事業もある。

永野委員 特にバリアフリーなどハード整備に関わる部分は、協働推進事業ではなく、市の予算でやるべきではないかと思います。5500 万の中から使うのであれば、バリアフリーもハードではなくソフトの方に使うべきではないでしょうか。

小林委員長 この辺りも去年と同じ意見です。区民会議からの意見として、使い方として適切かどうかという意見があったとぜひしっかり伝えていただきたいと思います。

事務局（田邊） 事務局としても市民局などと話しを進めていますが、なかなか話が進まない現状です。今後できるだけコミュニケーションして予算を確保し、5500 万はできるだけ本当の協働事業に使いたいということは重々承知しております。

小林委員長 資料 2 についての説明をお願いいたします。

事務局（中山） 資料 2 は各事業の事業評価書で、より詳しい内容が掲載されています。

区民会議の提案を受けての事業の動きです。平成 19 年度から子育て関連の情報を町会組織を通じて配布しようという提案を受け、その発行についてもととの予算では足りなかった部分について、予算追加計上の手続きをとっています。こうした動きについても、今後はもっと形が見えるようにしていきたいと考えております。

事務局（田邊） 以上、行政の方からは追加は特にございません。今後何かご不明な点等ございましたら

たら、各担当の窓口でも、結構ですので、いつでも問合せいただければと思います。

事務局（中山） 協働推進事業の評価については、10日も議題としてとりあげますが、今日頂いた意見は、10日以降にHP上などで反映させていきたいと思います。各担当課の問合せ先等も掲示したいと思います。

（２）各部会の審議状況について（資料３・４・５）

ア 明日のコミュニティ部会

事務局中山（宇賀神部会長が急遽欠席のため代理）より資料３に沿った説明があった。

- ・ 平成 18 年度は 2 回の会合を開き、自由な意見交換を行った。
- ・ 平成 19 年に入り、テーマの絞込み、具体的な議論に入った。
- ・ コミュニティの形成単位目標については、全市の市民局では中学校区単位という考え方であると聞いているが、宮前区では小学校区単位の目標とすることとした。
- ・ 平成 19 年度第 2 回、第 3 回の会合では子ども安全・安心協議会等、小学校区単位での実際の動きについて、関係者を招いて話を伺った。
- ・ 今後はさらに具体的な検討に入る予定であり、8 月は 22 日に会合を予定している。以降毎月 1 回程度の会合を開いて、11 月の第 3 回区民会議の場では、部会としての提案をまとめたいと考えている。

小林委員長 なかなか捉えにくいテーマですが、ここまで良く検討してきていると思います。私も参加させていただいておりますが、子ども安全・安心協議会で、学校・PTA・地域の集団指導体制をとっている平小学校区の事例は非常に参考になると思います。

川西委員 平は昔からの自治会、町会がしっかりしている地域ですね。

事務局（中山） 町会の単位が小さいことも、動きやすさに繋がっているかも知れません。

川西委員 コミュニティについては、総論で合意は得やすくとも、各論になりますとどう取組んだらいいのか見えにくく、すごくまとめにくいと思います。地域と学校の連携などについては、具体的な成功事例などを提示し、結果としてみんながつながる、一緒に汗を流すような事業企画をした方が、より早く成果が出るのではないかと思います。

小林委員長 防災の分野をテーマとして取り上げて、様々な地域の活動団体が一緒に取組んではどうかという意見が出ています。

川西委員 「地域安全マップ」づくりは、防災もまちづくりも全部が入り、地域やPTAも全てその作成に関わるしくみです。具体的な活動や取組みの事例として区で取り上げ、実際にやっていると、つながりやすいのではないのでしょうか。

事務局 地域の課題を認識し、共有することがコミュニティの形成につながるとの意見もありました。こども安全・安心協議会の先進地域としてお話を伺った平小学校区、向丘小学校区は、事例紹介に対する区民会議の反応を楽しみに、期待しているようです。こちらからも、さらに活性化につながるようなモデル的な投げかけや、問いかけをしてみても良いと思います。ぜひよろしくというように言われております。

川西委員 地域安全マップの普及啓発に取り組んでいますが、こどもも大人も、地域も学校も、保護者も先生も、全てが関わって地域が動いていくしくみになっていて、とても良いと思います。みんなで地域を歩いて、危険箇所など発見する危機管理能力の教育プログラムです。朝から一緒に一日動いていると、自然と交流も深まります。こどもと一緒にいると、普段は衝突しがちな大人たちも公

的な利益のために合意点を探る様になります。

永野委員 宮前の事業として、小学校区で取組んでみてはどうでしょうか？

川西委員 最初に取り組むのは平が良いと思います。1 中学校に 1 小学校の関係で地域としてもまとまりやすい。モデル的にしかけて、それを広く P R して先例がつかれます。

事務局(中山) 解決策として地域でモデル的に取組む際には、町連などの上、代表者が集まっている会合に話をして良しとするのではなく、できそうな地域に直接お願いをしてほしいということも言われています。地域で取組む場合はむしろ下から情報をゆきわたらせないと、実現が難しいだろうと思います。

川西委員 地域教育会議では、中学校区毎に地域安全マップのインストラクターを養成しています。あちこちの地域にキーマンとして動ける人材がいますので、まちぐるみで地縁づくり、コミュニティ形成の試みとして立ち上げ、地域に入っていきやり方もできそうです。

浅野委員 マンション自治会など、同じ地区内に既存の町内会とは異なる複数の組織がある場合、小学校区単位でうまくまとまるのかどうか疑問です。新旧住民の問題が指摘される地域もあります。町会に入ってくれない人が多い地区もあります。部会としては、町会に入らない人も巻き込んでいくことを目指したいが、それをどうすればいいのか。様々な組織が予算や人材の奪い合いをしたり、町会に封建的な組織が残っている地域もあります。そうした地域では町会とは別にコミュニティをつくっていくのか、それとも町会を巻き込んでいくのか。町会と別にやっとうまくいっても、その後いつまでたっても町会と別になっちゃってしまっは困ると思います。

永野委員 地域の中で新しい人が関わっていくことが必要です。新しい人がインストラクターになったり、参加して新しい発見をすることによって、新旧重なったコミュニティができることを期待したいです。新しい・古いに関係なく、コミュニティ毎に地域の課題について「こんなことだったのか」という発見を共有することで、新しいコミュニティをつくる。古い組織や町会があろうと関係ない。災害の際には近所で互いの安全を確認し合う。そういう雰囲気づくりを狙いたいです。

小林委員長 今までの様な、町会に何人出してくれと頼んで人を出してもらおうような形ではうまくいかないだろう。最初は難しいかも知れないが、人を選んで人脈でつないでいく。こども安全・安心協議会でも、P T A の会長をやっていたような人が、地域の方々と知り合いになることから初めて人脈を広げていくという話が出ていました。

渡辺委員 平小学校区では今のところ活動費(お金)の問題はそれほどないというお話もあった。まだ動き出したばかりだが、5 町会くらいある町会も協力的だそうだ。

イ 地域防災部会

渡辺部会長より資料 4・5 に沿った説明があった。

- ・ 防災ネットワークは 8 つの中学校区で行なわれているが、実際にはまだ稼動していないところが多い。また、避難所運営会議についても 25 の中学校や小学校のうち、動き出しているのは 5,6 校のみであり、まだまだこれからという認識である。
- ・ 防災意識の向上については、まだまだ様々な形での P R , 啓蒙が必要と考えている。

永野委員 区民の情報の共有が重要だと思う。例えば自治会に入っていない人と、まちづくり協議会の防災部会に入っているような人ではもっている情報にかなり差があります。

川西委員 自助はクロスロードや暮らし方講座などのツールをつかって情報を提供していくということになると思います。先ほどの協働事業との絡みでいうと、自助は文字だけ並べてもなかなか進

まないし、誰も取組もうとしません。例えば勉強会を開催したり、クロスロードのマイスター認定をしたり、積極的に地域のキーパーソンになる人材を育成していくことができれば、ダイナミックに動いていくのではないかと思います。

永野委員 市の防災インストラクター制度の前段階としての、防災指導員制度を宮前区独自でつくってはどうかという意見がありました。

小林委員長 宮前区区内に市の防災インストラクターが2名いますが、その資格の取得には時間がかかる現状です。防災指導員を100人規模でつくれば、地域も動きそうです。

目代委員 地域での助け合いも様々な場でアピールできると思います。

川西委員 ぜひ認定書を発行してほしい。認定書を出すと、その取得のために頑張ってくれる人もいます。

小林委員長 研修用の資料などは地域性に基づいて役所で作っていただくと良いと思います。

川西委員 楽しくやるのが大切です。楽しそうでなければ誰もやってきません。

今回の部会の資料は非常にわかりやすく、素晴らしいと思いました。

(3) 区民会議からの提案に対する取組み状況について(資料6)

事務局田邊企画調整担当主幹より資料6に沿った説明があった。

- ・ 最も右側の黒枠内が前回区民会議以降の取組状況になる。
- ・ 左横の枠の網掛けの部分は前回の区民会議で報告された取組み事項である。(前は最も右側にあったもの)
- ・ 子育ての提案6については、一定の取組みを終えた。完了したと今回位置づけ、全体に網掛けがされている。

小林委員長 取組が終了という事項については特にですが、なんらかの成果の報告やそれに対する評価が必要ではないか。ただやったというだけではまずいだろう。やった結果どうなったのかが知りたいところです。

事務局(田邊) 進行中のものについては書きづらい部分もあるかと思いますが、どうしたらよいと思いますか?

小林委員長 一部でも成果の例をあげれば良いと思います。例えば「広報が足りず参加が足りなかった」など簡単な反省でも良い。ちょっとでも結果がわかればと思います。みなさんどうでしょうか?

事務局(田邊) 明後日までに資料に盛り込むのは難しいと思いますが、次の区民会議に向けて検討したいと思います。

川西委員 高齢者の取組5:地域で高齢者を見守る会議の設置などがそうなのですが、「話し合った」「検討した」だけでは報告にはならない。どんな話し合いがされ、今後どんな展望があるのか、口頭でもよいので、もう少し具体的な説明が必要だと思います。

事務局(田邊) 現場で各担当のほうから補足をさせるようにしたいと思います。

渡辺委員 議論をまとめてきた事項に対し、区民の方がどれだけ喜んでいただけたのか、区民の反応がわかると嬉しいです。

浅野委員 「何々をやった」だけではわかりにくいなと私も思います。専門家の立場として、少し気になってしまったのは高齢者の提案3:出前講座の報告の中での、「口腔ケア」という言葉の使用です。口腔ケアというと歯磨き、口腔清掃の印象をもつ方が多く、口から物を食べることが大切で元気にもつながるといふこと、嚥下のケアが栄養にもつながること、などと口腔清掃を区別するため

に、最近“口腔清掃”は“口腔清掃”とし、“口腔機能の向上”などの言葉が使われてきています。

鈴木委員 出前講座は地域ケア会議の中で、包括支援センターがプログラムづくりをしているのが現状です。まだまだ未熟な中、手探りしながら一生懸命やっている状態なので、専門的な用語の使い方までなかなか把握できていないのが現状だと思います。できるところから取り組んでいる状況であり、伝えなければならない部分は皆さん充分わかっていると思いますので、温かい目で見えていただければと思います。

川西委員 先日子育て総合支援関係者懇談会に参加しましたが、今後は区民会議の提案も受けて、ネットワーク化を進めていくということで、区長もいらしていました。区役所内で、区民会議からの提案について、毎月1回進捗状況の報告の場を開催されているということで、すごいことだと思います。行政内部の方々は大変だと思いますが、全体を前進させていると思います。

事務局(中山) 行政職員にとっては、プレッシャーにもなっておりますが(笑)、庁舎をあげて取り組んでおります。

(4) 第2回宮前区区民会議の議事について(資料7)

資料7に基づき確認を行なった。

- ・ 区民会議参与の方々との懇談会(意見交換会)について、議題の「その他」の中で29日19~21時の開催案で図ることとした。
- ・ 次第の中に協働推進事業の評価について、項目立てすることを確認した。

3. その他

(1) 区民会議参与との懇談会(意見交換会)について

小林委員長 参与の議員さんたちとの懇談会ですが、8月10日の区民会議の前に開催してはどうかという案でしたが、参与さんたちの都合がつかないということで再調整をしています。

事務局(田邊) 日程再調整をFAX等でお願ひしているところです。昨日が締切で、まだ回答をいただけていない方もいらっしゃいますが、今のところ、8月29日(水)が最大公約数であり、そこでの開催を考えています。

小林委員長 行政は日程調整をするのみという立場ということです。ある程度テーマを決めて望みたいと思いましたが、案を作成して配布させていただきました。参与の方々は今まで区民会議に参加していただいて、ずっと審議の経緯を聞いていらっしゃいますので、ぜひ参与の方々のお力やお知恵を今後お借りできるような、場にしたいと思います。

まず一つのテーマ案は区民会議のあり方、進め方です。地域でのコミュニティづくりにおいて、いただける協力、あるいは行政サイドへの質問などです。それから議会改革や温泉施設建設問題、その他先ほどの協働推進費のあり方なども話題としてあるかもしれません。

浅野委員 本庁でやる事業と区でやる事業のお金の使い方、協働推進事業とも関わってくると思いますが、川崎市の分権のあり方について議員さんたちのイメージやご意見を個人的には聞いてみたいと思います。

川西委員 議会改革などの話題は場にあまり馴染まないと思います。区民会議に直接的なことを主に聞けると良いかなと思います。

鈴木委員 懇談会なのだから、私たちが抱えている課題など率直にぶつけてみたいと思います。そ

れをどう受けとめ、議会の場で反映していただけるかはお任せなのですが。

小林委員長 区民会議のあり方というよりは、今までの提案についての意見を聞いてみたほうがよいということでしょうか。

鈴木委員 会議ではなかなかできない話ができると思います。参与の方々が参加していない部会での議論なども話してはどうでしょうか？

川西委員 参与の方々は選挙によって、区民の声を集めているはずですが。その区民の声と区民会議のギャップがあるのかどうか。私達の議論を補完していくような情報をお持ちなのではないかと思います。

温泉問題は、景観条例にうまく発展していくなら区民会議とのリンクもあると思いますが、あまりこの話題だけに集中してしまうとデリケートな部分もあり、難しいなと思います。

小林委員長 ここにあげた話題だけに制限するつもりはありません。あくまでとっかかりとしていくつか挙げてみました。

永野委員 あまりはっきりテーマを決めず雑談的な動きでも良いと思います。

川西委員 ただし収集がつかなくなるとは困ります。今まで感じていたことなどをまず言っていただくのはどうでしょうか。時間は2時間くらいを想定しているのでしょうか。

目代委員 PTAで年数回懇談会をするのですが、どのような状況だったか思い出していました。区内のPTAの声がある程度まとまった時点で審議会さんどうにかありませんかという投げかけをしていたと思います。シンプルに今までの課題についてどう思われるか聴けば、それで結構時間が過ぎていくと思います。

川西委員 時間配分はきちりしたほうが良いと思います。誰かがずっとしゃべり続けるような状況は望ましくない。発言時間を区切って、音で知らせることも必要だと思います。事前に発言したい事の骨子を出してもらったりやり方もあります。議員さんは喋りたい方もいらっしゃいます。

永野委員 TVのようにがんがんやりあうようにはいかないでしょう。テーマを決めて時間制限できればいいが。

川西委員 意見を戦わせる必要はないと思います。各議員さんに発言をいただくだけで、結構な時間は過ぎていくと思います。

鈴木委員 区民会議を通して関心を持ったことは何か聞いてみたいと思います。

浅野委員 区民会議の制度がどうこうという話になるとあまりよくないのではないかと。

事務局(田邊) 会場は保健所1階の会議室を考えています。それほど広い会場ではないですが、参与の方は32名中、20名前後参加いただければ良い方ではないかと思っています。傍聴が入るわけではありませんので、丁度良い会場ではないかと考えています。

日程調整の段階で、何を話すの？と聞かれた参与の方々もいらっしゃいましたので、できれば事前に区民会議委員の方から主旨等をお伝えいただければ、参与の方々も安心して、ある程度考えをまとめた上で望んでいただけたらと思います。

川西委員 進行案を私の方で作成して委員長の方にお送りしたいと思います。

(2) その他

目代委員 区民会議の提案を受け手、子育て情報の町会組織を通じた回覧としての『子育てかわら版』が今月の回覧で各地区に回っています。ぜひお目をお通し下さい。

小林委員長 鈴木委員の活動が読売新聞で紹介された記事、また先週土曜日に福本委員の活動が朝日新聞の全国版で紹介された記事など参考資料として配布をお願いしたいと思います。

事務局（田邊） 中原区区民会議の竹井委員長から、区民会議同士の交流の場を持ちたいということです。10日の区民会議にも傍聴にいらっしゃり、その後お話ができればということで連絡がありました。